



校訓
「明るく 清く たくましく」

平成30年6月18日発行



梅雨に入りました

「固いダイヤモンドは同じ硬さをもつダイヤモンドで磨かなければ美しく光らない。人間も同じで人間によって磨かれて輝きを放ちます。『いろいろな人と関わる』『自分の意見を伝える』『自分と違う人を理解する』ことをしながら、苦手なこと初めてのことにも恐れずチャレンジしてみましょう。」

6月第1週の「いじめを考える週間」に合わせて、児童朝会で校長先生がこんな話をされました。各学級でも「仲間のあり方」や「居心地のよいクラス」などについて道徳や学級活動の時間に考えました。

いじめをしないために させないために

6年生では、ゲストティーチャーに岡山弁護士会から河本さんを迎え、「いじめ」について考えました。クラスメートからいじめを受け自殺した子どもの事件に関わった経験を活かした授業は子どもたちの「いじめ」に対する見方に一石を投じました。



4月の学力学習状況調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に子どもたちのほぼ全員が「絶対にいけない」と答えていました。しかし、この授業の最初に「いじめを見たことがない人はいますか？」の問いかけには、手が挙がりません。（どこかで体験しているんですよ）また、「いじめられている人も悪いですか？」の問いには「場合によってはいじめられている人も悪い」に手を挙げる児童が多くみられました。これは日比小の6年生だけの傾向ではありませんが、そのあと「いじめはどこにでもあることなので、その状況に対してどう関わるべきかを知ること、自分を見つめ直していこう」と授業は進みます。

「どんな子がいじめられる？」と問いかけられると、「弱い人」「静

かな人」「KYな人」など、子どもたちは周りと違う部分を指摘します。でもどうでしょう、「もしそれがいじめられる理由なら『強い人』『明るい人』だっっていじめられることになり、誰でもいじめられることになりませんか。」と問い返し、「これはいじめでいい理由にはなりませんよね。」と子どもたちに説明します。

自分が担当したいじめが原因で自殺した子の話を通して、死に至るきっかけが「なんでそんなことで死ぬの」ということであったことを伝えます。心をコップに例え、「嫌なこともいくらかはコップにため受け止めることができます。いいことがあれば貯まった水を減らすこともできます。でもどうでしょう。貯めることだけが続くとコップの水はいっぱいになります。そして最後の一滴、周りから『なんでこんなことで』と思われるたった一滴が入っただけでも、水はあふれ出るのです。」といじめの怖さを伝えます。そして、死ぬことで決して解決はしないことも…。

話の最後に「いじめの四層構造」について教えてくださいました。子どもたちがイメージしやすいようドラえもんにはめると、いじめられている当事者ののび太、いじめているジャイアンの他に周りでそれを見ているスネ夫と静香ちゃんがあります。スネ夫はいじめを見て周りではやし立てます。一方、静香ちゃんはいじめを止めることはできないけれど「大丈夫？」などと優しい声をのび太にかけます。「いじめは許されません。見つけたら止めなければいけません。しかし、難しいですよ。止めることができないなら、黙って見ているのではなく、静香ちゃんのように心のコップから水を抜く優しい言葉をかけてほしいと思います。」と河本さんは話を締めくくられました。そして最後に「いじめ」について自分のできることをそれぞれで考えました。



子どもたちの感想より

- ドラえもん置き換えた話が分かりやすかったです。以前このクラスにも「いじめ？」のようなことがあり話し合った経験があります。（もうそんなことは起こってません。）私は「いじめなんかでどうして死ぬの？」と疑問に思っていました。今日話を聞いて理由が分かりました。そうならないためにも、注意する（止めさせる）ことしかないのかなと考えるきっかけになりました。
- あらためていじめはいけないことだと思った。今度から言葉や態度に気をつけて、友達に嫌な思いをさせないようにしようと思った。

子どもたちの感想より

- いじめで一番怖いのは、「いじめていることを周りから注意されないこと」「いじめを見て見ぬふりをする事」だと思っていたけれど、それ以上に「それで自殺をする人がいること」が怖いと実感しました。心のコップに貯まった水を抜いてあげるとは自分でもできるのではないかと思いました。
- いじめは絶対にしてはいけません。いじめで死んだ人の話を聞いたけど、心の中が本当に苦しかったんだということが分かった。「大丈夫？」の声が大したことだということがわかりました。
- たった一言でも相手は相当つらい思いをしていることに改めて気づきました。遺書に「死んだら解決」と書いてあったそうですが、「何も解決しないのに」と思いました。でも一番いけないのはいじめをする人。そして、はやし立てる人、ただ見ているだけの人。もし、私がいじめをみつけたら、いじめられている人を励まそうと思いました。そして、止めたいと思いました。
- いじめは本当にダメなことがわかりました。そして、いじめている方は、相手が苦しんでいることに気づかずしていることが問題だとわかりました。

そばで見ているだけではいじめはなくなりません。優しい言葉をかけることも必要ですが、止めることができないなら、大人に助けを求めることが大事であることも伝えました。

さて皆さんは、校長先生がPTA総会でされた話を覚えていらっしゃるでしょうか。「子どもたちはいろいろな経験をして、成長します。苦しかったことも失敗したことも大事な宝物です。時間が経てばキラキラとした思い出になります。しかし、唯一、時間が経ってもキラキラした思い出にならない経験があります。それが『いじめ』です。」

また、「された側が『つらい』と感じた行為を『いじめ』といいます。ですから『いじめ』はどこでもあります。しかし、それをきちんと認知し指導していくことが大切です。いじめでつらい思いをする事のない学校を目指します。」と続けられました。

今年の1月に改定された「岡山県いじめ問題対策基本方針」について話をされた一部です。「からかい」「ちょっかい」などと相手を軽視したり「これぐらい」「よくあること」などと放置したりされがちな行為をきちんと「いじめ」と認知することをこの方針は求めています。周りで考えている以上に、苦しんでいる子がいます。そうした子を生み出さない、もしそうなっても早く助けるために子どもも大人も敏感でありたいと思います。

スナップショット



1年生
砂や土で遊ぼう！



1年生
鉄棒でつばめのポーズ



2年生
生き物なかよし大作戦

3年生
初めての大会



4年生
社会科見学に行きました



5年生
フレンド集会で
素敵な表情が



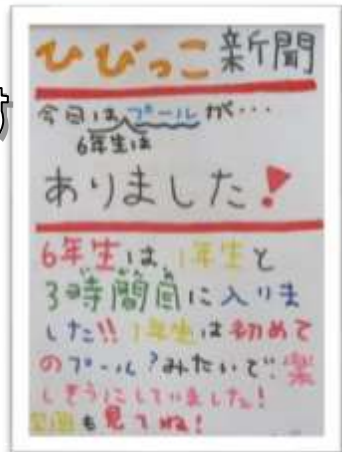
見てきたことは
新聞にしました



さすが6年生
朝学習の雰囲気
素晴らしい



役立つ係を作ろう！
いろんな会社を作って
がんばってます



ひびこ 来新聞
今日はプールが...
6年生は
ありました！
6年生は、1年生と
3時前に入りました！！
1年生は初めての
のプールみたいで、楽し
そうにいました！
お見えね！